

**探究学習の授業支援を新たに目黒区立の中学校でも実施します！
～2025年度は授業プログラムを拡充し、子どもたちの学びをさらに支援します～**

東急株式会社

当社は、2024年11月から「まちづくり」をテーマにした探究学習の授業支援（以下、本取り組み）を実施しています。開始から2年目となる2025年度は、2024年度に実施した学校への授業支援を継続しつつ、授業プログラムを拡充し、新たに目黒区立の一部の中学校にも授業支援を実施します。

2025年度は、これまでの授業ノウハウを活かし、新たに「未来の自分たちのまちをデザインする」授業を展開します。また、「お菓子作り」をテーマにした探究学習の豊富な授業実績を持つ株式会社ロッテ（以下、ロッテ）と協業し、当社グループとロッテの事業領域を掛け合わせた授業もスタートする予定です。

さらに、二子玉川の街やロッテの商品特性を分析した商品プロモーション活動に挑戦する「探究フェスティバル」イベントや、伊豆急行線の運行やホテル開発・運営など当社グループが幅広い事業を展開している「伊豆」を拠点に、地域課題解決をテーマにした地方創生プログラムも提供します。このように、当社の多様な事業領域を活かした幅広いコンテンツを通じて、子どもたちの学びを支援していきます。なお、本取り組みは、当社が2025年2月に立ち上げた東急線沿線の子育て世帯や学生を応援する「子育て・学生応援 東急スクラムプロジェクト」の一環として行うものです。

当社は、長期経営構想において「ひとづくり」をサステナブル重要テーマの一つとして掲げ、教育、文化、環境活動などを通じた社会におけるひとづくりの推進を通じて、未来に向けた美しい生活環境の創造に取り組んでいます。今後も授業プログラムの拡充に努めるとともに、東急線沿線内外の自治体や教育機関と連携して実施範囲を広げることで、次世代を担う子どもたちが予測不能な社会を生き抜く力を身に付けることに貢献します。



▲当社社員が講師を務める授業の様子（2024年度）



▲生徒の発表の様子（2024年度）

【別紙】

■探究学習の授業支援 概要

本取り組みは2024年11月から開始し、当社社員が講師を務めています。講義形式の授業と、まちや商業施設でのフィールドワークなど、リアルな体験を組み合わせた授業プログラムを提供しています。

2024年度は、渋谷区立の一部の小学校、慶應義塾横浜初等部、慶應義塾中等部、そしてN高グループの合計9校に授業支援を実施しました。授業に参加した児童・生徒たちへのアンケートでは、「渋谷のまちの歴史について学ぶことができ、ためになった」「自分たちのまちに欲しいモノ、コトをグループで議論するのが楽しかった」「渋谷が将来どんなまちになるのか楽しみになった」といった声が寄せられました。また、参加者の98%が「講師の説明がわかりやすかった」と回答するなど、満足度の高い授業プログラムを実現しました。

■2024年度取り組み実績

1. 渋谷区立小学校6校に対し、「課題解決型学習(PBL)」のプログラムを実施



▲講義形式の授業の様子

【授業内容】

学年	単元名・授業内容	授業回数
小学校5、6年	自分の推しをプレゼンしよう	2コマ(1コマ45分)
	自分の“推し”の好きな所やその理由を「ボーン図」を使って整理し、「PREP法」※1や表現の工夫を学びながらクラス内で発表しました。この活動を通じて、意見を論理的にまとめ、わかりやすく伝える力を養い、今後の授業の発表や仕事の場面でも活かせるプレゼンスキルの習得を目指しました。	
小学校5、6年	渋谷のまちの未来を作ろう	2コマ(1コマ45分)
	渋谷を題材に、まちの成り立ちを学んだうえで、自分たちの住む渋谷の未来についてグループで議論しました。この活動では、SDGsの観点も意識しながら、さまざまなアイデアを「Canva」※2を使ってクラス内で発表しました。自由な発想や議論する力、プレゼンスキルを育むだけでなく、まちの課題は何かなど、まちへの関心や愛着心の醸成を目指しました。	

※1 主張(Point)を述べ、それに対する理由(Reason)、具体例(Example)を挙げた後、再度主張(Point)で締めくくる論理的な説明方法

※2 プレゼン資料やデザインを簡単に作成できるオンラインツール

2. 慶應義塾横浜初等部・慶應義塾中等部に対し、フィールドワーク付きのプログラムを実施



▲渋谷でのフィールドワークの様子

【授業内容の一例】

学年	単元名・授業内容	授業回数
中学校3年	自分たちのまちにほしいものを考えよう 2週にわたるプログラムを実施しました。 1週目は、渋谷のまちのフィールドワークを行いました。この活動では、渋谷の地形を観察したり、訪れる人々の傾向を調査したり、開発された施設を見学しました。 2週目は渋谷のまちの成り立ちについて学び、自分たちが通う学校のあるまちについてグループで議論を行い、その成果をクラス内で発表しました。 このプログラムでは、自由な発想や議論する力、プレゼンスキルを育むとともに、まちの課題を考える過程を通じて、まちへの関心や愛着心を深めることを目指しました。	4コマ(1コマ45分)

3. N高グループに対し、ビジネス実践型のプログラムを実施



▲生徒が制作したSNS動画の一部

【授業内容】

学年	単元名・授業内容	授業回数
高校1、2年	武蔵小杉チャレンジプログラム	全13回(1回90分前後)
	【実施内容】 東急モールズデベロップメントが運営する武蔵小杉駅構内のトライアルショップ、「Canvas base(キャンパスベース)」に出店する企業のプロモーション活動支援を行いました。 このプログラムでは、SNSマーケティングに関する講義を通じて効果的なプロモーション手法を学ぶとともに、武蔵小杉のまちや「Canvas base」でのフィールドワークによって、地域の特性や店舗の役割を調査しました。また、出店企業の畑で芋掘り体験を行い、商材や企業の想いについて理解を深めました。最後には、学んだ内容を活かしてSNS動画広告の制作や店内で使用する販売促進ツールの作成を行い、プロモーションの実務経験を積むことで、ビジネススキルの習得を目指しました。 【参考】 https://www.tokyu-tmd.co.jp/news/canvas-base-20250214/	

■東急スクラムプロジェクトの概要

東急(株)グループの多岐にわたるノウハウやアセットを活用し、子育て関連施設やサービスのさらなる強化・連携に取り組むことで、東急線沿線の子育て世帯や学生におけるサービス向上や家計応援を実現する取り組み。「交通利用」、「まなび」、「お出かけ」、「暮らし」、「文化・体験」といったさまざまなシーンで、子育て世帯や学生の支援を推進することで、より住み続けたい沿線の実現を目指します。

【参考】<https://www.tokyu.co.jp/kodomoscrum/>